

野菜畑作生産情報 第3号

平成28年6月20日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



◎小麦とにんじくの収穫期が早まっています。
適期収穫に努めましょう！

畑作物

1 小麦

(1) 生育状況

ア 開花期は、ネバリゴシで平年より5～7日程度、キタカミコムギで平年より6～7日程度早かった。

イ 穂長、穂数は、ネバリゴシはほぼ平年並で、キタカミコムギは平年を上回っている。

表-1 小麦の出穂期、開花期

場 所	年次	ネバリゴシ		キタカミコムギ	
		出穂期 (月日)	開花期 (月日)	出穂期 (月日)	開花期 (月日)
農林総合 研究所 (黒石市)	本 年	5/15	5/22	5/17	5/24
	平年差	(早7日)	(早7日)	(早7日)	(早7日)
	平 年	5/22	5/29	5/24	5/31
野菜研究所 (六戸町)	前 年	5/16	5/23	5/21	5/25
	本 年	5/16	5/24	/	
	平年差	(早6日)	(早7日)		
平 年	5/22	5/31			
つがる市 (旧木造町)	前 年	5/10	5/20	/	
	本 年	5/15	5/24		
	平年差	(早5日)	(早5日)		
十和田市	平 年	5/20	5/29	5/15	5/24
	前 年	5/10	5/18	(早6日)	(早6日)
	本 年	5/17	5/25	5/21	5/30
	平年差	(早6日)	(早7日)	5/12	5/23
	平 年	5/23	6/ 1	/	
	前 年	5/10	5/19		

注) ①農林総合研究所、野菜研究所は作況試験ほ、つがる市(旧木造)、十和田市は生育観測ほの調査成績。

②平年値は、農林総合研究所の「ネバリゴシ」、「キタカミコムギ」が過去10年間、野菜研究所の「ネバリゴシ」がH20～H27(24年産(出芽不良)を除く)の7年間、つがる市(旧木造)の「ネバリゴシ」が過去14年間、「キタカミコムギ」が過去20年間、十和田市の「ネバリゴシ」が過去13年間の平均値。

表－２ 小麦の生育状況（６月１０日現在）

場 所	年次	ネバリゴシ			キタカミコムギ		
		稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)
農林総合 研究所 (黒石市)	本 年	79.5	7.7	412	91.0	9.1	392
	平年比	(107%)	(99%)	(100%)	(105%)	(106%)	(110%)
	平 年	74.6	7.8	411	86.4	8.6	355
野菜研究所 (六戸町)	前 年	67.5	7.3	377	80.5	7.6	287
	本 年	100.6	8.4	658			
	平年比	(107%)	(101%)	(89%)			
野菜研究所 (六戸町)	平 年	93.7	8.3	737			
	前 年	95.0	8.8	722			

注) ①農林総合研究所、野菜研究所は作況試験ほの調査成績。

②平年値は、農林総合研究所が10年間、野菜研究所は、H20～H27(24年産(出芽不良)を除く)の7年間

(2) 今後の農作業の留意点

ア 刈取準備

- (ア) 生育が早まっているため、適期に刈り取りできるようコンバインや乾燥調製施設の準備を進める。
- (イ) 効率的な収穫作業に向け、ほ場の排水対策を徹底する。

イ 適期刈取

- (ア) 刈取適期は6月下旬～7月中旬頃の見込みである。枯れ上がりの早いほ場が見られるため、収穫が遅れないようにする。
- (イ) 収穫が早すぎると未熟粒が多くなり、遅すぎると黒かび病や穂発芽の発生により品質が低下するので適期に刈り取る。
- (ウ) 刈取は、ほ場毎の成熟状況を確認して、子実水分が30%以下(穂を手でもむと脱粒しやすく、子実が爪で割れにくい状態)になった頃をめどに行う。
- (エ) 倒伏や穂発芽した小麦は、品質に悪影響を及ぼすので、仕分刈りを行い未熟粒や被害粒が混入しないようにする。
- (オ) 赤かび病は、被害粒の混入割合が1万粒に4粒程度を超えると流通できなくなるので、絶対に混入しないようにする。
- (カ) 出穂期以降の積算温度による主な地帯・品種別の刈取適期の見込みは、次のとおり。

地 帯 名	ネバリゴシ	キタカミコムギ	ゆきちから
西 北	7/ 4～7/10	7/ 8～7/13	—
中 南	7/ 2～7/ 8	7/ 7～7/12	6/27～6/29
東 青	—	7/11～7/16	—
上 北	7/ 5～7/11	—	—
三 八	7/ 5～7/11	—	—

注) 出穂期以降の積算温度(ネバリゴシ：830～950℃、キタカミコムギ：900～1,000℃、ゆきちから：840～867℃)を基準に推定した目安。

2 大豆

(1) 生育状況

- ア は種作業は順調に進んだ。
- イ 好天が続いたため、出芽は早く生育は順調である。

表－3 大豆の出芽状況

場 所	年 次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)
農林総合 研究所 (黒石市)	本 年	5/25	6/ 1
	(平年差)	(±0日)	(早3日)
	平 年	5/25	6/ 4
前 年	5/25	6/ 9	
野菜研究所 (六戸町)	本 年	5/15	5/22
	(平年差)	(早1日)	(早4日)
	平 年	5/16	5/26
前 年	5/15	5/27	

注) ①品種：おおすず。

②農林総合研究所、野菜研究所の作況試験ほの調査成績。

③平年値は、農林総合研究所が過去10年間、野菜研究所が過去7年間の平均値。

(2) 今後の農作業の留意点

- ア 中耕・培土は、1回目は本葉2～3枚の展開期に初生葉のつけ根まで、2回目は本葉5～6枚の展開期に第1本葉のつけ根まで土寄せする。
- イ アブラムシ類や食葉性害虫の適期防除に努める。
- ウ 長雨に備え、明きよを設置するなど排水対策を徹底する。

野 菜

1 にんにく

(1) 生育状況

ア 球径、球重は平年を上回っている。

イ 収穫期は、前年同様、平年より早まり、すでに収穫しているほ場が多く見られる。

ウ 春腐病、さび病の発生が見られ、一部で葉枯病、黄斑病の発生が見られる。

表-4 にんにくの生育状況（6月10日現在）

場 所	年次	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)	茎 径 (mm)	球 径 (mm)	球 重 (g)	りん片 分化期 (月日)	収穫期 (月日)
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平年比)	104.7 (108%)	12.9 (103%)	19.0 (91%)	64.0 (113%)	104.0 (131%)	4/12 11日早	— —
	平年	97.0	12.5	20.8	56.4	79.6	4/23	7/ 4
	前年	95.5	13.3	18.8	63.8	94.4	4/13	6/22
藤 崎 町 福 島 (旧常盤村)	本年 (平年比)	88.2 (107%)	8.2 (99%)	22.8 (112%)	54.7 (108%)	73.9 (118%)	4/24 6日早	— —
	平年	82.1	8.3	20.3	50.8	62.7	4/30	7/ 2
	前年	71.5	7.0	15.5	56.6	72.5	4/24	6/28
七 戸 町 榎 林 (旧天間林村)	本年 (平年比)	86.0 (104%)	7.8 (94%)	22.1 (106%)	62.0 (118%)	90.3 (132%)	4/14 11日早	— —
	平年	82.5	8.3	20.8	52.6	68.3	4/25	6/29
	前年	83.1	8.5	22.5	67.1	120.6	4/19	6/22
田 子 町 日ノ沢	本年 (平年比)	82.5 (101%)	8.4 (99%)	19.5 (99%)	61.1 (100%)	89.8 (124%)	4/15 9日早	— —
	平年	81.4	8.5	19.7	61.2	72.4	4/24	6/29
	前年	78.3	8.3	18.9	67.5	121.8	4/18	6/17

注) ①平年：野菜研究所は平成18年～27年の10か年の平均値。

藤崎町は平成9年～27年の19か年の平均値。

七戸町は平成8年～27年（平成25年を除く）の19か年の平均値。

田子町は平成8年～27年の20か年の平均値。

②種子：藤崎町は福地ホワイト（15～20g）。

七戸町は白玉王（10～11g）

田子町は白玉王（10～12g）

③葉数：野菜研究所は抽出葉数。

藤崎町、七戸町、田子町は生葉数。

(2) 今後の農作業の留意点

ア 病害虫の適期防除

収穫時に1枚でも多く生葉を残すことが球の肥大促進と割れ玉の発生軽減につながるため、最後まで病害虫防除を徹底する。

葉枯病、黄斑病は、収穫間際に一気に広がることもあるため、早期発見・早期防除に努める。

イ 適期収穫

収穫遅れとならないよう、早めに試し掘りを行い、盤茎部とりん片の尻部がほぼ水平となる時期に収穫する。

ウ イモグサレセンチュウの防除対策

被害拡大を防止するため、ほ場間の移動の際は機械等の洗浄を徹底する。

イモグサレセンチュウが発生しているほ場では、りん球への進入を抑制するため

①早期収穫、②速やかな根切り、③根のほ場外への搬出と適正処分、④速やかな強制乾燥を行う。

イモグサレセンチュウの発生を確認するため、種子用のにんにく20球程度を網袋に入れて1か月程度自然乾燥させた後、りん片の皮をむいて発根部付近の褐変や腐敗の有無を確認する。異常がみられた時は、指導機関に診断を依頼する。

エ 適正乾燥

(ア) 乾燥用の暖房機の温度設定は35℃とし、にんにく付近の温度が38℃以上にならないよう管理する。

(イ) 乾燥仕上がりは重量が7割程度に減少した頃で、根部をナイフ等で削り、盤茎部に爪がたたないぐらいの硬さであることを確認する。

(ウ) 建築用水分計を活用する場合は、重量が7割程度に減少した時の盤茎部の水分測定値「10～15%」を乾燥仕上がりの目安とする。ただし、テンパリング乾燥の場合は、盤茎部の水分測定値と全体の水分状態の関係が通常乾燥とは異なることから、重量比による従来での判断方法と併用して総合的に判断する。詳細については指導機関に相談する。

オ 乾燥仕上がり後の管理

乾燥仕上がり後は、出荷や冷蔵庫への入庫までの期間に、湿気が戻らないようにシート等で湿気を遮断するほか、一時保管中の温度が高温にならないよう適正に管理する。

2 ながいも

(1) 生育状況

植付作業は、平年より10日程度早く始まり、植付終わりは平年並の見込みである。上北地域では、平年並の5月下旬にほぼ終了し、三八地域では終盤となっている。病虫害は、ナガイモコガ、アブラムシ類の発生が見られる。

(2) 今後の農作業の留意点

ア 追肥

追肥が遅れると収量や品質低下の原因となるので、開始時期は、つる長のほか、試し掘りにより新しいも長も確認して適期に行う。

表－5 ながいもの追肥方法

	早植栽培（頂芽付1年子）	普通栽培
追肥開始時期の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・植付後60日前後（6月下旬～7月上旬） ・新しいも長は5cm前後 ・つる長は150cm前後 	<ul style="list-style-type: none"> ・種いもが子いもの場合、植付後45～55日頃（7月中旬頃） ・種いもが切いもの場合、植付後55～65日頃（7月中下旬頃） ・新しいも長10～15cm ・つる長200～220cm（ネット8分目～ネット上部到達） ※低温年では、新しいも長を目安とする。
追肥の間隔及び回数	・6月下旬から8月上旬の間に、12～14日間隔で3回	・7月中旬から8月中旬の間に、10日程度の間隔で3回
1回当たりの追肥量	・10a当たり窒素成分で5kg以内とする。	

※ ウイルスフリー種子を使用した場合や地力が高いほ場に作付けした場合は、1回当たりの追肥量を減らす。また、下位節からの側枝の発生が多く、生育が旺盛な場合は3回目の追肥量を減らす。

イ 病虫害の適期防除

葉渋病、炭そ病、ナガイモコガ、アブラムシ類の早期発見・早期防除に努める。採種ほ場では、ウイルスの伝搬を防ぐため、10日程度の間隔でアブラムシ類の防除を徹底する。

表－6 アブラムシ類、ナガイモコガ及び葉渋病の発生時期

栽培法	植付時期	萌芽期	アブラムシ類		ナガイモコガ	葉渋病
			発生初め	発生盛期	幼虫発生初め	発生初め
早植栽培	5/上	5/下	5/下	6/中～下	6/中	7/中
普通栽培	5/下	6/下	6/下	7/中	7/中	8/下

3 春夏にんじん（トンネル栽培）

（1）生育状況

- ア 生育は順調で、地上部、地下部とも平年を上回っている。
- イ 病害虫の発生はほとんど見られない。

表－7 春夏にんじんの生育状況（6月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 長 (cm)	根 径 (mm)	根 重 (g)
六 戸 町 上吉田	本年	3/ 6	54.0	9.5	18.0	41.0	120.5
	(平年比)	11日早	(105%)	(113%)	(103%)	(121%)	(159%)
	平年	3/17	51.5	8.4	17.6	33.9	75.9
	前年	3/16	42.5	8.0	16.7	34.4	76.9

注) ①平年：平成18年～27年の10か年の平均値。

②品種：彩誉7（平成18年は「彩誉」、平成19～20年は「ねぶたキャロ」、平成21～27年は「彩誉7」）

（2）今後の農作業の留意点

葉の半数以上が地際部まで下がった頃に試し掘りを行い、M、L級を中心に収穫する。

4 ばれいしょ

（1）生育状況

- ア 生育は順調で、草丈は平年を上回っている。
- イ 着蕾期は平年より17日早い5月15日、開花期は平年より15日早い5月28日であった。
- ウ 病害虫の発生はほとんど見られない。

表－8 ばれいしょの生育状況（6月10日現在）

場 所	年次	植付期 (月日)	萌芽期 (月日)	着蕾期 (月日)	開花期 (月日)	草 丈 (cm)	茎 数 (本)
三 沢 市 三 沢	本年	3/21	4/25	5/15	5/28	75.2	2.5
	(平年比)	21日早	12日早	17日早	15日早	(130%)	(89%)
	平年	4/11	5/ 7	6/ 1	6/12	57.7	2.8
	前年	3/29	4/28	5/18	6/ 1	74.0	2.2

注) ①平年：平成16年～19年、平成21年～24年、平成26年～27年の10か年の平均値。

②萌芽期の平年：平成16年～17年、平成21年～24年、平成26年～27年の8か年の平均値。

③品種：メーカーイン

（2）今後の農作業の留意点

- ア 疫病の予防防除を徹底する。
- イ 早出し栽培（マルチ栽培）では6月下旬頃に試し掘りを行い、いもの肥大を確かめて収穫期を決める。また、収穫の5～7日前に茎葉を刈り取るなど、いもの表皮のコルク化を進めてから収穫する。
- ウ 県内の一部でジャガイモシストセンチュウの発生が確認されたことがあるので、日中の葉の萎れや下葉の黄化等の症状を発見したら、指導機関へ診断を依頼する。

5 ごぼう

(1) 生育状況

- ア 生育は順調で、草丈、葉数は平年を上回っている。
- イ 病害虫は、一部でアブラムシ類の発生が見られる。

表－9 ごぼうの生育状況（6月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)
三 沢 市 三 沢	本年	4/24	16.6	2.7
	(平年比)	4日早	(157%)	(123%)
	平年	4/28	10.6	2.2
	前年	4/19	11.8	2.4

注) ①平年：平成18年～27年の10か年の平均値。
 ②品種：柳川理想。平年値は過去10か年の平均値。

(2) 今後の農作業の留意点

除草、病害虫防除を適期に行う。

6 メロン

(1) 生育状況

- ア トンネル栽培（4月下旬～5月上旬定植）の生育は概ね順調である。
- イ 開花は良好であるが、定植後の低温の影響により、着果節位は14～15節目と、高めになっている。
- ウ 病害虫は、一部でアブラムシ類の発生が見られる。

表－10 メロンの生育状況（6月10日現在）

場 所	年次	定植期 (月日)	主づる 長 (cm)	主づる の葉数 (枚)
つがる市 木造	本年	5/7	147.8	19.4
	前年	5/6	168.6	25.3
	前々年	5/8	184.5	22.9

注) ①平年：平成26年から担当農家を変更したため、平年値はない。
 ②品種：タカミ

(2) 今後の農作業の留意点

- ア トンネルの開閉をこまめに行うなど温度管理を徹底して生育の促進を図る。特に交配期は12℃以下の低温が続くと着果率が劣るので、最低気温15℃前後を目安に管理する。
- イ 交配はミツバチ等訪花昆虫を利用するか人工交配を行う。また、曇雨天が続く場合はホルモン処理を併用する。
- ウ アブラムシ類、アザミウマ類の発生に注意し、適期に防除を行う。

7 ねぎ

(1) 生育状況

- ア 3月中旬定植の生育は、かん水を実施しているほ場では順調で、草丈、茎径は平年を上回っており、かん水を実施していないほ場では生育差が見られる。
- イ 4月中旬定植の生育は順調で、草丈、茎径は平年を上回っている。
- ウ 病害虫は、さび病、ネギアザミウマの発生が見られる。

表-11 ねぎの生育状況（6月10日現在）

場 所	年 次	は種期 (月日)	定植期 (月日)	草 丈 (cm)	茎 径 (mm)
八 戸 市 是 川	本年	1/10	3/18	81.0	17.3
	(平年比)	7日早	10日早	(116%)	(113%)
	平年	1/17	3/28	69.6	15.3
	前年	12/29	3/20	71.3	17.3
十和田市 羽 立	本年	2/26	4/20	48.5	9.8
	(平年比)	8日遅	11日早	(121%)	(114%)
	平年	2/18	5/ 1	40.0	8.6
	前年	3/11	4/29	41.5	8.6

注) ①平年：八戸市は平成16年～27年の12か年の平均値。
十和田市は平成17年～27年の11か年の平均値。
②品種：夏扇パワー

(2) 今後の農作業の留意点

- ア 草勢の維持に努め、生育に応じて培土や追肥を適期に行う。
- イ 主要病害のべと病の発生に注意し、蔓延しないよう防除を徹底する。
- ウ ネギコガ、ネギアザミウマの発生に注意し、適期に防除を行う。

◎メロンやいちごなどの園芸作物で、花粉交配用ミツバチが確保できない場合には、各地域県民局地域農林水産部まで御相談ください。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 農薬の飛散を防止する！
- 2 農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てない！
- 3 農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認！

農薬情報(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)

農薬登録情報検索システム(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)

連絡先 農産園芸課野菜・畑作物振興グループ
 県庁内線 5078
 直 通 017-734-9481
